

平成25年度 県内大学生が創る奈良の未来事業審査委員会

議事概要

1 日 時 平成25年7月23日（火） 13:00～16:30

2 場 所 奈良県議会棟 本会議場及び第2委員会室

3 出席者

荒井正吾委員長、栗山道義副委員長、岡本好央委員、音田昌子委員、中野聖子委員、佐藤滋委員、辻本俊秀委員、高橋真知委員、吉本清信委員（中山藤一委員欠席）

・県内大学生が創る奈良の未来事業審査委員会規則第5条の2の規定により、会議の開催が成立したものとする。

（第5条の2 委員会は、委員（委員長を含む。）の過半数の出席がなければ、会議を開き、議決をすることができない。）

4 公開・非公開の別

・プレゼンテーション及び質疑応答 公開（傍聴者 65人）

・審査及び選考 非公開

非公開理由：県内大学生が創る奈良の未来事業審査委員会運営要領第3条の規定による

（第3条 委員会は原則公開とする。ただし、審査及び選考については、奈良県情報公開条例（平成13年3月奈良県条例第38号）第7条第2号に該当する情報について審議等を行うため、非公開とする。）

5 概 要

<開会>

○知事挨拶

- ・県内の大学生の皆様から政策提案をいただき、「県内大学生が創る奈良の未来事業」は、昨年度に続いて2回目となる。
- ・本事業では、奈良の事業を刺激するようなアイデア、その他ニッチなものなど、大学生の感性が発揮されるような政策の提案をいただきたいと思います。
- ・県はそこから選定させていただいて、予算をつけて事業化することとしている。昨年度も事業化した例があるので、今年度も是非よいプレゼンをしていただき、事業に結びつけられるようになれば大変嬉しく思う。

<プレゼンテーション及び質疑応答>

○県内大学生が創る奈良の未来事業審査委員会運営要領第2条の規定により、県内大学生が創る奈良の未来事業に応募した県内の大学等に在籍する学生（以下「県内大学生」という。）によるプレゼンテーション及び委員による質疑に対する県内大学生からの応答を行った。

（1）政策提案1

政策提案の名称：「自然の恵みリスタート事業」

提案者の在籍する大学等の名称：奈良女子大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

大学院人間文化研究科博士前期課程 1 年住環境学専攻 濱川真衣

○資料 1 に基づき、県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑（中野委員）：

- ・南部地域の課題として、物理的、心理的な距離の問題があると思うが、距離の問題をどう考えているか？

応答（県内大学生グループ）：

- ・物理的な問題では、学生スタッフのサポートで近くの五條駅や橋本駅まで送迎する。心理的な問題では、実際に南部地域はあまり村外に情報を発信出来ないで、田舎コンを開催するにつれて徐々に発信量を増やして、心理的に若者が近づきやすい場所だと伝えていきたい。

○質疑（音田委員）：

- ・野迫川村を選んだ理由は特にあるのか？参加者は県内からか、全国からか？その中で定住する人が出てくれば、地元でできる仕事は何か考えているか？

応答（県内大学生グループ）

- ・選んだ理由については、可住地面積が 2. 1 % と、なかなか行くのが困難で厳しい中でもイベントができるので、厳しい環境でまず始めて、周りに広げて行きたい。参加者については、地域によって未婚の 20 代 30 代がいる地域や高齢者が多い地域があるので、村の中で結婚を考えていきたい人のいる地域では、村内で参加者を募ることも考えるなど、地域の特色に合わせて募集したい。仕事については、アマゴ釣りや山菜採りなどで、地元の産業に触れることも考えている。今後村外へ発信していく中で、新しいビジネスも得られるかと思うので、そういった可能性も含めて行っていきたい。

○質疑（栗山副委員長）：

- ・今回の提案の一番の問題は持続性かと思うが、大学としての持続性はできているか？野迫川村の地域ブランドのようなものは考えているのか？

応答（県内大学生グループ）：

- ・持続性については、奈良女子大学の授業科目にキャリア育成プランがあり、学生の企画力や発案力を高める目的の授業があり、その中で今回の事業に関する科目を新設したい。野迫川村のブランド力については、地域ごとに産業などの違いが明確になっていくので、今回の事業を通して村民たちも自分たちのブランド力の再発見することができ、徐々に村から外に発信できる。

○質疑（岡本委員）：

- ・この提案の主な目的は、過疎地に観光資源を新しい目で再発掘して、たくさんの方に多くの地域から来てもらうことにあるのか、減っている人口を若者たちが合コンすることによって、定住者を増やしていくことにあるのか？

応答（県内大学生グループ）：

- ・今回の事業を通して野迫川村や南部地域の方々に、自分の地域のよいところを再確認してもらい、自信をもってここに住み続けたいと思う意識を持ってもらいたい。若者が外部から来ることによって、村民が自分の地域の魅力を共有することでまた新たな自信につながる。それに加えて、田舎コンで誕生

したカップルが定住促進になればと考え、友達の集まりではなく男女の集まりとした。

(2) 政策提案2

政策提案の名称：

「奈良まるごと発信ー魅力ある仮想空間の構築による観光の振興ー」

提案者の在籍する大学等の名称：帝塚山大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

人文学部・日本文化学科・3年 安井捷吏

○資料2に基づき、県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑（高橋委員）：

- ・グーグルストリートビューを使って、どのようにこのコンテンツに人を流入させるのか？

応答（県内大学生グループ）：

- ・グーグルストリートビューにURLを直接リンクをはることができるので、わざわざインターネットでもう一度、調べ直す手間が省ける。グーグルストリートビューで細い道や屋内でも撮影ができるので、紹介させていただくところにリンクをはっていただければ、色々な人に知っていただける。

○質疑（高橋委員）：

- ・グーグルストリートビューを使っているユーザーがすでにたくさんいる中で、このURLがあることをどのように気づいてもらうのか？

応答（県内大学生グループ）：

- ・奈良に観光に来ようと考えたときに、有名なところだと東大寺などにもリンクをはってもらって、このようなURLがあることを紹介してもらえたらと考えている。また、色々な企業や商店街などに協力をお願いしたい。

○質疑（辻本委員）：

- ・埋め込むべき詳細情報の具体的な例示はあるか？

応答（県内大学生グループ）：

- ・例えば、大学の先生が調査したものや、教室がどのようにできたかなど。また、大学に外国人の方がおられるので、音声案内をはっていく。

○質疑（辻本委員）：

- ・例えば、ならまちだったら小さな道に入っていくと、それぞれのまちの概要やお店情報などを埋め込んでいくという考えか？

応答（県内大学生グループ）：

- ・はい。

○質疑（中野委員）：

- ・特別なイベントや祭りなどを開催しているときの仮想空間を作ると、色々なニーズに合ってくるのではないのか？

応答（県内大学生グループ）：

- ・これから研究していきたい。

○質疑（岡本委員）

- ・博物館等にも入って行って紹介することも考えているのか？東大寺ミュージアムや興福寺の国宝館など博物館のホームページにかなり中身が出ている

が、それらとどう差別化するのか？

応答（県内大学生グループ）：

- ・まず、代表の方などに許可をとって、HP にリンクを貼ってもらい、許可が得られれば、撮影してはいけないものなどを確認して、気をつけて撮影していきたい。

(3) 政策提案3

政策提案の名称：「さあ！行く LINK in 奈良－自転車で走る伝統の街－」

提案者の在籍する大学等の名称：帝塚山大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

経済学部・経済学科・1年 瓜生悠花

○資料3に基づき、県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑（佐藤委員）：

- ・自転車で回ると楽しいという具体例は？

応答（県内大学生グループ）：

- ・例えば、奈良中心部のコースを使い、その周辺の施設を利用して、観光してもらう。

○質疑（栗山副委員長）：

- ・例えば、飛鳥でレンタサイクルが盛んだが、飛鳥での体験コースはどのようなものを考えるか？

応答（県内大学生グループ）：

- ・今回は奈良の中心部のコースを考えていたので、飛鳥は考えていなかった。また、検討していきたい。

○質疑（栗山副委員長）

- ・奈良市内での体験で、どのようなものを考えているのか？

応答（県内大学生グループ）

- ・例えば、握り墨体験、染付体験など色々な体験がある。また、市内に限らず、生駒市の高山の茶筌や、桜井市の三輪そうめんなどの体験も組み込んでいきたい。

○質疑（栗山副委員長）

- ・長距離のサイクリングを考えているのか？

応答（県内大学生グループ）

- ・コースの最長を5kmとして、10代～40代の方で、サイクリング未経験の方にも楽しんでいただける、駅を基点とした短いコースにしたい。

○質疑（高橋委員）：

- ・メンバーでサイクリングが好きだという方はどれくらいおられるか？

応答（県内大学生グループ）：

- ・（挙手）

○質疑（辻本委員）：

- ・自転車を乗り捨てると、パークアンドライドで車を停めたところまで戻ってくる手段はどうするのか？また、サイクリングも車に比べて移動時間が長くなるし、体験型の観光も時間がかかりすぎるので、急いで観光したい人にとってはやりにくい。サイクリングと観光をくっつける際に、どちらを重視し

ているのか？

○応答（県内大学生グループ）：

- ・まず乗り捨てた自転車については、大きな駐車場などに乗り捨てる場所を作ろうと考えている。自分が車を止めたところに戻ってきてもらって、そこで自転車を返却してもらおう。サイクリングと体験型観光を融合することについては、南都経済センターなどの調査によると、どちらも同程度の潜在的観光価値があると思われたので、融合させることにした。急いで観光したい方には向かないかも知れないが、そういう方にはバスなどの公共交通機関を利用して、他の体験をしてもらいたい。

（4）政策提案4

政策提案の名称：

「STAY する NARA 奈良～観光客の県外宿泊を食い止める政策～」

提案者の在籍する大学等の名称：帝塚山大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

経済学部・経済学科・2年 福原拓哉

○資料4に基づき、県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑（中野委員）：

- ・ホテルを起点として飲食店を紹介するようだが、旅館やゲストハウスなど色々な宿泊施設もあるが、どのように考えているのか？

応答（県内大学生グループ）：

- ・外国人などがスマートフォンなどを使えるよう Wi-Fi が設備されているかどうかが重要なので、始めは大きなホテル、旅館などで夜マップを広げていき、Wi-Fi 設備ができてくれば、小さな民宿などにも広げていきたい。

○質疑（中野委員）：

- ・Wi-Fi 環境があることが最優先事項だということか？

応答（県内大学生グループ）

- ・Wi-Fi 環境が最優先事項ということではないが、そのことを踏まえて考えていきたい。小さい旅館なども考えて、夜マップを入れていきたい。

○質疑（辻本委員）：

- ・例えば、食ベログなどで評価点があるが、それらとどう差別化していくのか？

応答（県内大学生グループ）：

- ・食ベログなどには外国語の翻訳がないので、夜マップでは中国語・韓国語・英語などを入れていきたい。

○質疑（高橋委員）：

- ・アプリにすることを想定したマップ作りでは、更新性が重要になる。今後、学生が更新し続けるのか？翻訳は大学のサークルや学部で取り組んでいくのか、県の事業として、県で翻訳するのか？

応答（県内大学生グループ）：

- ・翻訳については、中国語などは大学にも留学生がたくさんいるので、大学側も協力してやっていきたい。アプリの更新性については、アプリをつくるアイデアは大学生が集めて、よいアプリをつくっていききたいが、更新は業者

に発注してやってもらいたい。

○質疑（音田委員）：

- ・県民に N-1 グランプリへの参加を促す広報や呼びかけをどのようにされるのか？また、それがおいしいのかということはどう決めるのか？

応答（県内大学生グループ）：

- ・N-1 グランプリの宣伝については、一番人気がある観光地に重点的に置いていき、奈良交通のバス中刷りなどの宣伝で、県民に広げていきたい。

○質疑（栗山副委員長）：

- ・宿泊施設が少ない中で、どういうホテルや旅館と進めていけばよいと考えているか？

応答（県内大学生グループ）：

- ・定期的に場所を変えたいと考えているので、その場所に近いホテルを重点的に考えていきたい。

○質疑（栗山副委員長）：

- ・修学旅行のシーズン外に、旅館などと協力して値引きなどとセットして進めていくのもひとつの手かと思う。これに限らず色々なことを試みてほしい。

応答（県内大学生グループ）：

- ・今の提案も踏まえて、これから考えていきたい。

(5) 政策提案5

政策提案の名称：

「『眺望のいいレストラン』を活用したクリエイティブツーリズム」

提案者の在籍する大学等の名称：奈良佐保短期大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

生活未来科ビジネスキャリアコース 1回生 田中渚紗

○資料5に基づき、県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑（佐藤委員）：

- ・大学のレストランの、一般のお客様、学生たちの評判は？

応答（県内大学生グループ）

- ・レストランでは映画やコンサートが開催されることもあり、一般のお客様が楽しめる。小さなお子さんも来られる。いつも笑顔で帰られる。学生にとっては、レストランで一番人気なのはソフトクリームで、システムも一般の方と触れ合えるので楽しい。

○質疑（音田委員）：

- ・3つの提案を今後他の8つのレストランにも提案していくことを考えているのか？それともまず自分のところでやっていくということか？観光客を増やすという目標を達成するには、9つ全部でやっていかないと難しいと思うが、他のところへの広がりはどう考えているか？

応答（県内大学生グループ）

- ・他のレストランで展開する場合、提案をベースにして、各レストランや周辺の良いところを発見し、それぞれの場所に合ったプランに調整していきたい。

○質疑（音田委員）：

- ・学生ガイドは佐保短期大学の方々ですということか？

応答：

- ・主に佐保短期大学の学生でツアーガイドをしようと思っている。

○質疑（中野委員）：

- ・「さほーだつだつ」を今後どのように展開していくのか？

応答（県内大学生グループ）：

- ・「さほーだつだつ」については、広報活動に力を入れていきたい。SNS や動画配信サイトで「さほーだつだつ」にメッセージなどを送っていただいて、インパクトを与えていきたい。

○質疑（高橋委員）：

- ・クリエイティブ・プロモーションというのも継続性が必要だが、「さほーだつだつ」は学生が引き継いでいくのか？

応答（県内大学生グループ）：

- ・「さほーだつだつ」はアニメとして、季節によって服を変えたり、髪型を変えたり、その時々々の流行に合わせて、学生たちで年々進化させていきたい。

(6) 政策提案6

政策提案の名称：

「科学の旅－シーズンフリーのワンストップサイエンスツーリズム」

提案者の在籍する大学等の名称：奈良教育大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

教育学部・学校教員養成課程理数生活科学コース4回生 荻奈津希

○資料6に基づき、県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑（岡本委員）：

- ・奈良教育大学の敷地の中に修学旅行生に早朝や夕方にわざわざ来てもらうには、何か工夫が必要なのでは？ワクワクさせるには、現地で現物を見ながら教える方がいいという批判があると思うが、見ないで教えるのと、見ながら教えるのとの差をどのように解決するのか？

応答（県内大学生グループ）：

- ・学生が学外に出て、現場で教えることも考えている。

○質疑（栗山副委員長）：

- ・ワクワクして、また今度大学生になったらもう一度来ようとか、今度はこんなところを勉強してみたいとか思ってもらうためには、見たものを掘り下げるなど、現地でやったり、大学に来てもらったり、色々なコースを考えてみたらどうか？

応答（県内大学生グループ）：

- ・ありがとうございます。

○質疑（辻本委員）

- ・どれくらいの修学旅行生を奈良教育大学で教えようとしているのか？旅行代理店に売り込もうとした時に、オプション料金はどれぐらいで考えているのか？

応答（県内大学生グループ）：

- ・人数については、人数が多ければ、早朝のグループ、夕方のグループなどに

分けて行うこともできる。また、オプションツアーの形で、希望者のみ実施することもできる。額については、3,000円くらいかと考えている。

○質疑(高橋委員) :

- ・今まで小学生、中学生を対象に実験を行ってきたのか？実績はどれぐらいあるのか？

応答(県内大学生グループ) :

- ・曾爾村で、夏、冬に、定期的に授業をしたり、科学の祭典などに出展したりしている。

○質疑(栗山副委員長) :

- ・実践していくための大学側の体制、参加できる大学生数は？

応答(県内大学生グループ) :

- ・現在、新理数プロジェクトに各学年10名ほどが参加しており、また、ボランティアで学生を募集して、参加する学生を増やすことはできる。

○質疑(栗山副委員長) :

- ・まず何名かから進めようということか？

応答(県内大学生グループ) :

- ・はい

(7) 政策提案7

政策提案の名称：「大学生がつくる幼児のためのスポーツイベント」

提案者の在籍する大学等の名称：奈良教育大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

教育学部・保健体育専修・3回生 赤木誠五

○資料7に基づき、県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑(栗山副委員長) :

- ・現状の幼稚園ではどういうやり方をやっているのか？スポーツイベントは、100名未満を集めて、1回だけやるのか？

応答(県内大学生グループ) :

- ・幼児期の運動については、担当教授が幼稚園児を対象としたスポーツテストを実践しているので、情報を得ることはできる。規模については、5ブースを設置して、各ブース20名程度、合計100名で行いたい。イベントでうまくいったら、その次にまた同じようなイベントを各地でやっていきたい。最初は県立橿原公苑で行い、次に鴻ノ池陸上競技場などの大きなスポーツ施設で行っていきたい。

○質疑(栗山副委員長)

- ・現状の幼稚園では、ゴールデンエイジへの運動指導がまだされていないということか？

応答

- ・各幼稚園の具体的な状態は把握していないが、大きなスポーツイベントで、子どもたちに運動の楽しさを伝えることはまだやっていないと思う。

○質疑(岡本委員) :

- ・提案されたものは、パターン化されて、あまりおもしろくないように思うが、興味を持ってもらうための工夫を何か考えているか？遊びで運動するの

と、パターン化されたものをどう繋ぐのか？

応答（県内大学生グループ）：

- ・子ども達に、このような機会でも運動を好きになってもらうことが重要だが、バルシューレなど、ゲーム性に富んだプログラムを通じて、遊びの中から楽しさをわかってもらえたらと考えている。

○質疑（吉本委員）：

- ・将来的には県内に広まっていかなければいけないと思うが、発展性はどのように考えているか？

応答（県内大学生グループ）：

- ・イベント終了後、保護者にアンケートに答えてもらって、アンケートの結果により、他の場所でもイベントを実施していきたい。

<審査・選考>

○「県内大学生が創る奈良の未来事業審査委員会運営要領」第2条の規定により、委員による審査及び選考を実施し、最優秀賞1提案、優秀賞2提案を選考した。

・最優秀賞：

政策提案6

政策提案の名称：

「科学の旅ーシーズンフリーのワンストップサイエンスツーリズムー」

提案者の在籍する大学等の名称：奈良教育大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

教育学部・学校教員養成課程理数生活科学コース4回生 荻奈津希

・優秀賞：

政策提案1

政策提案の名称：「自然の恵みリスタート事業」

提案者の在籍する大学等の名称：奈良女子大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

大学院人間文化研究科博士前期課程1年住環境学専攻 濱川真衣

政策提案7

政策提案の名称：「大学生がつくる幼児のためのスポーツイベント」

提案者の在籍する大学等の名称：奈良教育大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

教育学部・保健体育専修・3回生 赤木誠五

<選考結果発表・表彰>

○荒井委員長より、最優秀賞1提案、優秀賞2提案を発表し、賞状と副賞を授与した。

<審査委員講評>

○栗山副委員長より、講評を行った。

- ・先程、審査委員で白熱の議論があったが、それぞれの提案はキラリと光る部分があり、これからの奈良県にとってワクワクする提案ばかりだった。その中で、最優秀賞1提案、優秀賞2提案が選考されたが、いずれも奈良県の強

みをこれからどうするか、弱みをどうするかということについて、皆様の若い感性で色々考えて、ご提案いただいた。

- 最優秀賞の政策提案6について、自分たちが学んでいるサイエンス分野の能力を発揮することで、奈良県へ修学旅行に来て、何かを発見したり、ワクワクしたりするとっかかりになるような仕組みをこれから作ってもらいたい。また、県内の他の大学にも働きかけて、色々な分野で、奈良再発見へつながるような仕組みにつなげていってもらいたい。
- 優秀賞の政策提案1について、1年がんばって、「兵たちが夢の後」で、かえって村が寂しくなってしまったということにならないように、持続的な仕組みや村の人たちへどう継承していくかも考えながら、進めてもらいたい。
- 同じく優秀賞の政策提案7について、最初は小さくても、県内の皆様に広がるよう、ぜひ進めてもらいたい。また、幼稚園でできないことをするにはどうするのかなど、専門で勉強している皆様で、幼稚園との関係づくりもいっしょに考えてほしい。
- 惜しくも選にもれた4提案も、それぞれキラリと光るものがあり、引き続き研究して、より実現性の高いものにするよう考えてほしい。
- 賞に選ばれた3提案も、これから県庁の職員と打ち合わせや勉強をして、来年の今頃には一歩、二歩進んでいるようになれば、県としてもありがたいと思う。

<閉会>